

京都大学組換えDNA実験安全管理規程施行細則新旧対照表

改正前	改正後
<p>第1条 この細則は、京都大学組換えDNA実験安全管理規程(以下「規程」という。)第15条第1項及び第4項、第16条、第17条第2項及び第3項、第18条第3項、第19条第1項、第24条第4項並びに第27条の規定に基づき、規程の実施に関し必要な事項を定めるものとする。</p>	<p>第1条 この細則は、京都大学組換えDNA実験安全管理規程(以下「規程」という。)第25条第5項及び第29条の規定に基づき、規程の実施に関し必要な事項を定めるものとする。</p>
<p>第2条 規程第15条第1項及び第19条第1項の申請書(これに添付する書類を含む。以下この条において同じ。)並びに規程第15条第4項の届出書の様式は、様式1、様式2及び様式5のとおりとする。</p>	<p>第2条 規程第15条第2項の組換えDNA実験に係る実験施設等の点検記録は、別紙1により行うものとする。</p>
<p>2 前項の申請書及び届出書の提出部数、提出期限等は、別表に定めるとおりとする。</p>	<p>第3条 規程第16条第1項及び第20条第1項の申請書(これに添付する書類を含む。以下この条において同じ。)並びに規程第20条の2の情報提供書の様式は、様式1、様式2及び様式5のとおりとする。</p>
<p>第3条 規程第16条の報告書の様式は、様式3及び様式4のとおりとする。</p>	<p>2 前項の申請書及び情報提供書の提出部数、提出期限等は、別表に定めるとおりとする。</p>
<p>第4条 規程第17条第2項の組換えDNA実験に係る施設・設備の点検記録の様式は、様式6のとおりとする。</p>	<p>第4条 規程第18条の報告書の様式は、様式3及び様式4のとおりとする。</p>
<p>2 規程第17条第3項の組換えDNA実験に係る施設・設備に掲げるべき表示の様式は、様式7のとおりとする。</p>	<p>第5条 規程第19条第1項の保管に当たって執るべき拡散防止措置に係る表示の様式は、様式6のとおりとする。</p>
<p>第5条 規程第18条第3項の保管記録の様式は、様式8のとおりとする。</p>	<p>2 規程第19条第2項の保管記録は、別紙2により行うものとする。</p>
<p>第6条 規程第24条第4項の健康診断の検査の項目は、人事院規則10-4(職員の保健及び安全保持)第20条第3項に定める健康診断の検査項目のほか保健管理センターの所長が特に必要と認める項目とする。</p>	<p>第6条 規程第25条第5項の健康診断の検査の項目は、労働安全衛生規則(昭和47年労働省令第32号)第43条から第45条の2までに定める健康診断の検査項目のほか保健管理センターの所長が特に必要と認める項目とする。</p>
	<p>附 則 この細則は、平成17年11月29日から施行する。</p>

別表

改正前			改正後		
確認、承認及び届出の対象事項	提出書類及び提出部数	提出期限	対象事項	提出書類及び提出部数	提出期限
<p>第1 培養規模20以下の未同定DNA実験</p> <p>1 認定宿主-ベクター系用いる実験</p> <p>(1) 新たに病原性が見出された微生物又は種名まで同定されていない微生物のうち病原性を有することが科学的に推定されるものDNA供与体とする実験</p> <p>(2) 指針別表3の(4)に掲げる真核生物(真菌及び原虫を除く。)のウイルス及びウイロイド(以下「ウイルス等」という。)をベクター又はDNA供与体とする実験</p> <p>(3) 脊椎動物に対するLD50が100 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重以下の蛋白性毒素産生能を有する遺伝子を用いる実験</p> <p>2 認定宿主-ベクター系以外の宿主-ベクター系用いる実験(指針別表5に掲げ用いる実験を除く。)</p> <p>3 組換え体の自然界への散布を含む実験</p> <p>第2 培養規模20以下の同定済みDNA実験</p> <p>1 認定宿主-ベクター系用いる実験</p> <p>(1) 新たに病原性が見出された微生物又は種名まで同定されていない微生物から提供されるDNAのうち病原性等に係るものをDNA供与体とする実験</p> <p>(2) 指針別表3の(4)に掲げるウイルス等をベクター又はDNA供与体とする実験</p> <p>(3) 脊椎動物に対するLD50が100 $\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重以下の蛋白性毒素産生能を有する遺伝子を用いる実験</p> <p>2 認定宿主-ベクター系以外の宿主-ベクター系用いる実験</p> <p>(1) 新たに病原性が見出された微生物又は種名まで同定されていない微生物から提供されるDNAのうち病原性等に係るものをDNA供与体とする実験</p> <p>(2) 指針別表3の(4)に掲げるウイルス等をベクター又はDNA供与体とする実験</p>	<p>組換えDNA実験計画申請・届出書(様式1) 1部</p> <p>組換えDNA実験計画書(様式2-1若しくは様式2-2) 3部</p> <p>なお、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに1部添付すること。</p>	<p>1 科学研究費補助金による実験 毎年11月10日まで</p> <p>2 1以外の実験等については、随時</p>	<p>機関承認実験</p>	<p>組換えDNA実験申請書(様式1) 1部</p> <p>組換えDNA実験計画書(様式2) 1部</p> <p>なお、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに1部添付すること。</p>	<p>1 科学研究費補助金による実験 毎年11月末日まで</p> <p>2 1以外の実験等については、随時</p>
			大臣確認実験	<p>組換えDNA実験申請書(様式1) 1部</p> <p>第二種使用等拡散防止措置確認申請書 1部</p> <p>なお、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに1部添付すること。</p>	
			遺伝子組換え生物等の譲渡・提供	<p>遺伝子組換え生物等の譲渡・提供申請書(様式5-1) 1部</p> <p>遺伝子組換え生物等の譲渡・提供計画書(様式5-2) 1部</p>	随時

改正前

改正後

(3) 生細胞に感染し、及び自立的に増殖する能力を維持しているウイルス粒子(指針別表 6 に掲げるウイルスを除く。以下「二次感染性ウイルス粒子」という。)が生じる蓋然性が高い実験

(4) 脊椎動物に対する LD50 が $100 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重以下の蛋白性毒素産生能を有する遺伝子を用いる実験

(5) 指針別表 2 の (2) 又は (3) に掲げる微生物を宿主とし、薬剤耐性遺伝子を導入することにより人に感染した場合において治療することが困難となる性質を付与する実験

(6) 新たに病原性が見出された微生物又は種名まで同定されていない微生物のうち病原性の有無が明らかでないものを宿主とする実験

(7) 毒素、サイトカイン、ペプチドホルモン又は既知のアレルゲンの発現その他の事由により宿主の安全性の評価が及ぶ蓋然性が高い実験

3 組換え体の自然界への散布を含む実験

第3 大量培養実験

1 未同定 DNA 実験

2 同定済み DNA 実験のうち機能承認実験に該当しない実験

3 LS - C レベル又は特別な物理封じ込めの方法による実験

第4 動物を用いる実験

1 未同定 DNA 実験

2 指針別表 3 の (4) に掲げるウイルス等をベクター又は DNA 供与体とする実験

3 脊椎動物に対する LD50 が $100 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重以下の蛋白性毒素産生能を有する遺伝子を用いる実験

4 ヒトのみに病原性がある微生物又はウイルス等に対するヒトと共通の感染受容体を動物に付与する実験

5 霊長類を用いる実験

6 文部科学大臣確認実験により作製された組換え体を動物に接種する実験

改正前	改正後
<p>7 組換え動物又は組換え体を接種した動物について非閉鎖系区画又は屋外特定区画その他屋外の区画において飼育管理を行う実験</p> <p>第5 植物を用いる実験</p> <p>1 未同定 DNA 実験</p> <p>2 指針別表 3 の(4)に掲げるウイルス等をベクター又は DNA 供与体とする実験</p> <p>3 脊椎動物に対する LD50 が $100 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重以下の蛋白性毒素産生能を有する遺伝子を用いる実験</p> <p>4 文部科学大臣確認実験により作製された組換え体を植物に接種する実験</p> <p>5 組換え植物又は組換え体を接種した植物について非閉鎖系区画又は屋外特定区画その他屋外の区画において栽培管理を行う実験</p>	
<p>第1 培養規模 20 以下の未同定 DNA 実験</p> <p>1 文部科学大臣確認実験及び機関届出実験以外の実験</p> <p>第2 培養規模 20 以下の同定済み DNA 実験</p> <p>1 文部科学大臣確認実験及び機関届出実験以外の実験</p> <p>第3 大量培養実験</p> <p>1 同定済み DNA 実験</p> <p>(1) 認定宿主一ベクター系を用いて得た組換え体を用いる実験のうち、20 以下の規模で実施した場合において P1 又は P2 レベルの封じ込めが必要とされるものであつて機関承認実験又は機関届出実験となるもの</p> <p>(2) 指針別表 5 に掲げる宿主一ベクター系及び DNA 供与体を用いて得た組換え体を用いる実験</p> <p>第4 動物を用いる実験</p> <p>1 文部科学大臣確認実験及び機関届出実験以外の実験</p> <p>第5 植物を用いる実験</p> <p>1 文部科学大臣確認実験及び機関届出実験以外の実験</p>	<p>組換え DNA 実験計画申請・届出書(様式 1)1 部</p> <p>組換え DNA 実験計画書(様式 2—3 若しくは様式 2—4)1 部</p> <p>なお、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに 1 部添付すること。</p>

改 正 前	改 正 後
<p>第1 培養規模 20 以下の未同定 DNA 実験</p> <p>1 認定宿主—ベクター系を用いる実験</p> <p>(1) 指針別表 2 の(1)又は指針別表 4 の(1)に掲げる微生物を DNA 供与体とする実験</p> <p>(2) 指針別表 3 の(1)に掲げるウイルス等を DNA 供与体とする実験</p> <p>(3) 植物を DNA 供与体とする実験</p> <p>第2 培養規模 20 以下の同定済み DNA 実験</p> <p>1 認定宿主—ベクター系を用いる実験</p> <p>(1) 指針別表 2 の(1)又は指針別表 4 の(1)に掲げる微生物を DNA 供与体とする実験</p> <p>(2) 指針別表 3 の(1)に掲げるウイルス等を DNA 供与体とする実験</p> <p>(3) 植物を DNA 供与体とする実験</p> <p>2 機関承認実験によって作製した組換え体そのまま用いる実験で、組換え体を作製した実験における物理的及び生物学封じ込めの同じ方法で行うもの</p> <p>第4 動物を用いる実験</p> <p>他生物への自立的移行性を持たない DNA を導入して作出した組換え動物系統のうち当該 DNA に係る形質が安定しており、かつ、人に対する安全性の保持に影響を及ぼすことがない系統を用いる実験</p> <p>第5 植物を用いる実験</p> <p>他生物への自立的移行性を持たない DNA を導入して作出した組換え植物系統のうち当該 DNA に係る形質が安定しており、かつ、人に対する安全性の保持に影響を及ぼすことがない系統を用いる実験</p>	<p>提出書類は、上欄のとおり。</p>

(様式8)

(別紙2)

遺伝子組換え生物等組換え体保管等管理簿

実験課題名 _____

実験責任者名 _____

年月日	保管内容			保管場所	異動事項 (年月日)	備考
	遺伝子組換え生物等(組換え体)名又は、1)宿主、2)ベクター、3)ターゲット	保管場所	菌数(株数)又は要領			

(注) 異動事項欄には、廃棄、使用済み、譲受け、譲渡、提供、委託及び移動の別を記入するものとする。

(様式1)

組換えDNA実験申請~~届出書~~

平成 年 月 日

京都大学総長 殿

実験 責任 者	所属	
	職名	
	氏名	印

下記の組換えDNA実験について別紙計画書のとおり実施したいので申請~~届出~~します。

記

組換えDNA実験の課題名

(様式2-1)

組換えDNA実験計画書

廃止

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分 (注2)	物理的封じ込め (注2)	公的経費 (注3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (年 月 号) <input type="checkbox"/> 変更 (年 月 号)	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> LSC <input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> LS1 <input type="checkbox"/> P3 <input type="checkbox"/> LS2 <input type="checkbox"/> P4 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

実験実施機関	所在地	(〒)
	名称	
	代表者の職名・氏名	

課題名	
-----	--

実験実施期間(注4)	年 月から 年 月まで
------------	-------------

実験責任者	所属部局の所在地	(〒)
	所属機関・部局・職名	
	氏名	TEL FAX E-mail

実験場所	所在地	(〒)
	名称	

実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)

安全委員会が本実験計画の 実施を適当と認める理由(注7)			
	委員長の所属部局・ 職名・氏名		

廃止

実験課題名	
実験の目的	
実験の概要	
当該組換えDNA実験を行う 必要性(注8)	
本実験が大臣確認実験となる 事由(注9)	

供与体・ベクター・宿主の組み合わせ(注10)							
DNA供与体 (注11)	DNAの種類 (注12)	未同定DNA 実験に係る 単離予定の DNA(注13)	同定済み DNA実験に 係る供与 DNA(注14)	ベクター (注15)	宿主 (注16)	封じ込め レベル (注17)	備考

DNA供与体の特徴及び 生物学的リスク(注18)	
単離予定のDNA又は供与DNA 並びにその産物の特徴及び 性質(注19)	
ベクターの特徴、伝達性、 宿主依存性(注20)	
宿主の特徴、遺伝子交換範囲 とその機構(注21)	
宿主—ベクター系の特徴、 生物学的封じ込め の程度及び不活化の方法 (注22)	

廃止

組換え動植物作出時における、DNA導入の段階及びその方法(注23)	
組換え体又は組換え体を接種する動植物の特性及びリスク(注24)	
大量培養実験に係る組換え微生物、組換え動植物又は組換え体を接種した動植物の封じ込め措置(注25)	
組換え体の実験終了後の処置	

物理的封じ込めに係る施設・設備	位置(注26)	
	構造(注27)	
	設備(注28)	

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

- 注1 該当項目にチェックを入れ、変更の場合は前回大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。
- 注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。
- 注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。
- 注4 予定している実験実施期間(5年を限度とする)を記入すること。
- 注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。
- 注6 組換えDNA実験の経験の有無ならびに経験年数を記入すること。
- 注7 安全委員会及びその委員長が本計画を安全に実施できると認める理由を記入すること。(実験計画、場所、従事者の妥当性など)
- 注8 大量培養実験、組換え体を動植物に接種する実験、脊椎動物の蛋白性毒素産生遺伝子を扱う実験が含まれる場合は、当該実験を行う必要性について簡潔に記入すること。
- 注9 指針第6章及び第7章のどの項目に該当するか記入すること。
- 注10 DNA供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎に番号、直線、罫線等でまとめ、相互の関連を明らかにすること。
- 注11 DNA供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。
- 注12 供与DNAについて、ゲノムDNA、相補DNA、合成DNAなどの種類を記入すること。
- 注13 未同定DNA実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとするDNAの名称を記入すること。
- 注14 同定済みDNA実験のときに該当。使用する供与DNAの名称(公表されたものであれば文献等)を記入すること。
- 注15 ベクターの名称を記入すること。
- 注16 宿主の種名、系統名又は培養細胞の名称等を記入すること。組換え体を動植物に接種する場合には、接種に係る動植物を □ で囲むこと。
- 注17 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込めレベルを記入すること。
- 注18 DNA供与体について、指針における物理的封じ込めレベル並びに必要なに応じてその特徴、自然界における分布、病原性、寄生性、腐生性などの実験従事者に対するリスクについて記入すること。また、蛋白性毒素を産生する場合はLD50及び毒素遺伝子の構造について記入すること。
- 注19 単離・使用するDNA又はその産物等について簡潔な説明を記入すること。また、同定済みDNAの場合は塩基配列又は同定に至る資料を添付し、その資料番号を記入すること。
- 注20 ベクターの由来・薬剤耐性・特異形質等の特徴、伝達性、宿主依存性について記入し、必要なに応じて実験結果・文献を添付すること。また、ウイルスベクターの場合は指針における物理的封じ込めレベルを記入すること。
- 注21 微生物を宿主とする場合は、栄養要求性・薬剤耐性、至適生育条件等の特徴を、培養細胞をウイルスの宿主として使用する場合は、宿主内における宿主の核酸や共存するウイルス由来の核酸との遺伝情報の交換の可能性について記入すること。また、宿主に病原性、発がん性及び毒素産生性がある場合は、その説明についても記入すること。
- 注22 認定宿主—ベクター系以外の微生物を宿主とする宿主—ベクター系を用いる場合には、宿主の生存能力、伝播性、不活化の方法と予測される不活化の効率を記入すること。また、ウイルスを使用する場合には、そのウイルスの伝播性に対する生物学的封じ込めの程度を記入すること。
- 注23 組換え動植物を作出する場合に記入すること。卵、胚、種子、生体など核酸導入時の細胞の分化段階及び導入方法を記入すること。
- 注24 組換え又は組換え体の接種により新たに獲得することが予想される形質について記入すること。感染性、病原性、寄生性、腐生性又は毒素産生性等の形質が変化すると予想される場合は、その旨明記すること。
- 注25 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培時における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物等の不活化等、封じ込め方法について記入すること。
- 注26 実験室又は実験区域の位置、実験設備・装置等の配置を図示し、機関内の安全委員会による認可年月日について記入すること。
- 注27 P3以上の施設の場合に記入すること。また、実験設備の構造について図示すること。
- 注28 P2以上の施設の場合に記入すること。また、その設備ならびに装置の名称を記入すること。

(様式2-2)

組換えDNA実験計画書

廃止

非閉鎖系区画又は屋外特定区画等における実験

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分 (注2)	物理的封じ込め (注2)	公的経費 (注3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (年 月 号) <input type="checkbox"/> 変更 (年 月 号)	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> 非閉鎖系区画 <input type="checkbox"/> 屋外特定区画 <input type="checkbox"/> その他屋外の区画	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

実験実施機関	所在地	(〒)		
	名称			
	代表者の職名・氏名			
課題名				
実験実施期間(注4)		年 月から 年 月まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・職名			
	氏名	TEL	FAX	
		E-mail		
実験場所	所在地	(〒)		
	名称			
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)
安全委員会が本実験計画の実施を適当と認める理由(注7)				
		委員長の所属部局・ 職名・氏名		

廃止

実験課題名	
実験の目的	
実験の概要	

(A) 組換え体に関する事項

組換え体の種類及びその作出方法(注8)		
宿主及び宿主の属する生物種	分類学上の位置(注9)	
	自然界における分布(注10)	
	生殖・繁殖様式及び遺伝的特性(注11)	
	当該生物の属する生物種における有毒物質産生の有無(注12)	
	その他の特性(植物の場合は雑草性の有無を含む)(注13)	
供与DNAの由来、種類、機能、大きさ、純化の程度及びその構成(注14)		
ベクターの由来、構成及び特性(注15)		
組換えDNA分子の構成図(注16)		
これまでの実験で得られた知見	これまでの実験経過(注17)	
	元の宿主と組換え体の相違	供与DNAの発現
		発現形質
		発現の安定性(注18)
		供与DNAの存在状態(注19)
	有毒物質産生の有無	
	生殖、繁殖様式及び遺伝的特性	
その他の特性		
その他得られた知見		

廃止

(B) 組換え体を接種する動植物に関する事項

組換え体の接種の方法		
組換え体を接種する動植物及び当該動植物の属する生物種	分類学上の位置 (注9)	
	自然界における分布 (注10)	
	生殖・繁殖様式及び遺伝的特性(注11)	
	当該生物の属する生物種における有毒物質産生の有無(注12)	
	その他の特性(植物の場合は雑草性の有無を含む)(注13)	
組換え体の接種が動植物に与える影響(注20)		

(C) 実験の実施方法に関する事項

栽培・飼育等の規模 (注21)		
栽培・飼育等の方法 (注22)		
施設等	位置及び周辺との隔離状況(注23)	
	規模、構造及び設備 (注24)	
	周辺の環境における生物種(注25)	
	周辺の環境の気象条件及びその影響 (注26)	
組換え体等の区域外への漏出・飛散・逃亡防止のための措置(注27)		
組換え遺伝子の区域外への伝播防止のための措置 (注28)		
実験終了後の組換え体、廃棄物等の処置方法及びその有効性(注29)		
実験区域への従事者以外の立ち入り防止の措置 (注30)		

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

課題名等の他、組換え体を用いる実験は(A)及び(C)について、組換え体を動植物に接種する実験は(A)から(C)について必要事項を記入すること。

注1 該当項目にチェックを入れ、変更及び継続の場合は前回大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。

注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。

注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。

注4 予定している実験実施期間(5年を限度とする)を記入すること。

注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。

注6 組換えDNA実験の経験の有無ならびに経験年数を記入すること。

注7 安全委員会及びその委員長が本計画を安全に実施できると認める理由を記入すること。(実験計画、場所、従事者の妥当性など)

注8 使用する組換え体の種名及び作出方法(パーティクルガンにより細胞にDNAを導入した後に植物体を再生等)を具体的に記入すること。

注9 和名及び学名を記入すること。

注10 わが国における分布状況及び必要に応じて原産国等における分布状況を記入すること。

注11 植物の場合は以下①～⑥について、その他の場合は自然界における生活サイクルについて記入すること。[①種子繁殖、栄養繁殖の別 ②一年生、多年生の別 ③種子又は栄養体の拡散様式 ④自家受粉、他家受粉の別 ⑤花粉の拡散様式 ⑥交雑様式]

注12 有無及びある場合は、その名称及び有害さの程度を記入すること。

注13 生育可能温度等の生育条件を記入すること。

注14 DNA供与体の属・種・必要に応じて系統名、ゲノム・相補などのDNAの種類、構造遺伝子・発現調節遺伝子等の機能、使用するDNAの機能部分の大きさ、クローニング等による純化の有無及びその程度、各機能部分の構成図等について記載すること。

注15 薬剤耐性等ベクター内の遺伝子機能、その由来及び構成について記述すること。

注16 供与DNA及びベクターの構成を遺伝子部位等を含め図示すること。

注17 組換え動植物の作成実験、植物栽培施設における栽培実験又は動物飼育施設における繁殖等これまでに実施してきた実験について、計画の機関内安全委員会における承認年月日、実験の時期、方法、組換え動植物の継代数等を含めて具体的に記載すること。

注18 発現を検討した個体の数、世代数、分析方法について記載すること。

注19 供与DNAの存在の状態を、検討した個体の数、世代数、分析方法を含め記載すること。

注20 組換え体を接種した動植物についてその予想される影響を記載すること。

注21 栽培する組換え植物又は組換え体を接種する植物の個体数と栽培面積、飼育する組換え動物又は組換え体を接種する動物の個体数と飼育面積等を記載すること。また、当該施設において異種の生物が栽培・飼育されている場合等はその生物種及び栽培層・飼育層等を記載すること。

注22 組換え植物又は組換え体を接種する植物の栽培方法と容器の使用の有無、組換え動物又は組換え体を接種する動物の飼育方法と容器使用の有無等について記載すること。

注23 使用する施設・実験区域等の位置が分かるように、周辺の建物・河川等をあわせ図示すること。

注24 使用する施設・実験区域等の規模、構造及び設備、機関内安全委員会による認可年月日について記載すること。

注25 使用する施設・実験区域等の周辺に、組換え生物又は組換え体を接種する生物と交配可能な生物が生息する場合に記載すること。

注26 最高気温、最低気温、平均気温、降水量その他の気象条件及び、組換え生物又は組換え体を接種する動植物の生育や生存に対する影響について記載すること。

注27 消毒、除雄、袋かけ、栽培容器の使用、飼育容器の使用、実験衣の着用等、組換え生物又は組換え体を接種する生物が実験施設・区域外に流出しないために講ずる措置を具体的に記載すること。

注28 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培時における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物の不活化等、封じ込め方法について記載すること。

注29 実験終了後の組換え生物又は組換え体を接種した生物のみならず、培養・栽培・飼育中に接触した器具類や廃棄物の具体的な処理方法を、確認又は推定される有効性とあわせ記載すること。

注30 内部規則、「組換えDNA実験中」の表示、金網、くい、ネズミ返し等、講ずる措置を具体的に記載すること。

(様式2-3)

組換えDNA実験計画書

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分 (注2)	拡散防止措置 (物理的封じ込め) (注2)	公的経費 (注3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (年 月 号) <input type="checkbox"/> 変更 (年 月 号)	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> LSC <input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> LS1 <input type="checkbox"/> P3 <input type="checkbox"/> LS2 <input type="checkbox"/> P4 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> P() <input type="checkbox"/> 特定飼育区画 <input type="checkbox"/> 特定網室	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

課題名				
実験実施期間(注4)		年 月から 年 月まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・職名			
	氏名	TEL	FAX	
		E-mail		
実験場所	所在地	(〒)		
	名称			
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)
安全委員会が本実験計画の 実施を適当と認める理由(注7)				
		委員長の所属部局・ 職名・氏名		

実験の目的	
実験の概要	
当該組換えDNA実験を行う 必要性(注8)	
本実験が大臣確認実験となる事 由(注9)	

供与体・ベクター・宿主の組み合わせ(注10)							
DNA供与体 (注11)	DNAの種類 (注12)	未同定DNA 実験に係る 単離予定の DNA(注13)	同定済み DNA実験に 係る供与 DNA(注14)	ベクター (注15)	宿主 (注16)	拡散防止措置 (封じ込め) レベル (注17)	備考

DNA供与体の特徴及び 生物学的リスク(注18)	
単離予定のDNA又は供与DNA並 びにその産物の特徴及び 性質 (注19)	
ベクターの特徴、伝達性、 宿主依存性(注20)	
宿主の特徴、遺伝子交換範囲 とその機構(注21)	
宿主—ベクター系の特徴、 拡散防止措置(生物学的封じ込 め)の程度及び不活化の方法 (注22)	

<p>遺伝子組換え動植物作出時における、DNA導入の段階及びその方法(注23)</p>	
<p>遺伝子組換え生物等(組換え体)又は遺伝子組換え生物等(組換え体)を接種する動植物の特性及びリスク(注24)</p>	
<p>大量培養実験に係る遺伝子組換え微生物、遺伝子組換え動植物又は遺伝子組換え生物等(組換え体)を接種した動植物の拡散防止措置(封じ込め措置)(注25)</p>	
<p>遺伝子組換え生物等(組換え体)の実験終了後の処置</p>	

<p>拡散防止措置(物理的封じ込め)に係る施設・設備</p>	<p>位置(注26)</p>	
	<p>構造(注27)</p>	
	<p>設備(注28)</p>	

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

注1 該当項目にチェックを入れ、変更の場合は前回大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。

注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。

注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。

注4 予定している実験実施期間(5年を限度とする)を記入すること。

注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。

注6 組換えDNA実験の経験の有無ならびに経験年数を記入すること。

注7 安全委員会及びその委員長が本計画を安全に実施できると認める理由を記入すること。(実験計画、場所、従事者の妥当性など)

注8 大量培養実験、**遺伝子組換え生物等(組換え体)**を動植物に接種する実験、脊椎動物の蛋白性毒素産生遺伝子を扱う実験が含まれる場合は、当該実験を行う必要性について簡潔に記入すること。

注9 指針第6章及び第7章**二種省令別表第一**のどの項目に該当するか記入すること。

注10 DNA供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎に番号、直線、罫線等でまとめ、相互の関連を明らかにすること。

注11 DNA供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。

注12 供与DNAについて、ゲノムDNA、相補DNA、合成DNAなどの種類を記入すること。

注13 未同定DNA実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとするDNAの名称を記入すること。

注14 同定済みDNA実験のときに該当。使用する供与DNAの名称(公表されたものであれば文献等)を記入すること。

注15 ベクターの名称を記入すること。

注16 宿主の種名、系統名又は培養細胞の名称等を記入すること。**遺伝子組換え生物等(組換え体)**を動植物に接種する場合については、接種に係る動植物を □ で囲むこと。

注17 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込め**拡散防止措置**レベルを記入すること。

注18 DNA供与体について、指針における物理的封じ込め**拡散防止措置**レベル並びに必要な応じてその特徴、自然界における分布、病原性、寄生性、腐生性などの実験従事者に対するリスクについて記入すること。また、蛋白性毒素を産生する場合はLD50及び毒素遺伝子の構造について記入すること。

注19 単離・使用するDNA又はその産物等について簡潔な説明を記入すること。また、同定済みDNAの場合は塩基配列又は同定に至る資料を添付し、その資料番号を記入すること。

注20 ベクターの由来・薬剤耐性・特異形質等の特徴、伝達性、宿主依存性について記入し、必要な応じて実験結果・文献を添付すること。また、ウイルスベクターの場合は指針における物理的封じ込め**拡散防止措置**レベルを記入すること。

注21 微生物を宿主とする場合は、栄養要求性、薬剤耐性、至適生育条件等の特徴を、培養細胞をウイルスの宿主として使用する場合は、宿主内における宿主の核酸や共存するウイルス由来の核酸との遺伝情報の交換の可能性について記入すること。また、宿主に病原性、発がん性及び毒素産生性がある場合は、その説明についても記入すること。

注22 認定宿主—ベクター系以外の微生物を宿主とする宿主—ベクター系を用いる場合には、宿主の生存能力、伝播性、不活化の方法と予測される不活化の効率を記入すること。また、ウイルスを使用する場合には、そのウイルスの伝播性に対する生物学的封じ込め**拡散防止措置**の程度を記入すること。

注23 **遺伝子組換え動植物**を作出する場合に記入すること。卵、胚、種子、生体など核酸導入時の細胞の分化段階及び導入方法を記入すること。

注24 **遺伝子組換え**又は**遺伝子組換え生物等(組換え体)**の接種により新たに獲得することが予想される形質について記入すること。感染性、病原性、寄生性、腐生性又は毒素産生性等の形質が変化すると予想される場合は、その旨明記すること。

注25 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培時における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物等の不活化等、封じ込め方法**拡散防止措置**について記入すること。

注26 実験室又は実験区域の位置、実験設備・装置等の配置を図示し、機関内の安全委員会による認可年月日について記入すること。

注27 P3以上の施設の場合に記入すること。また、実験設備の構造について図示すること。

注28 P2以上の施設の場合に記入すること。また、その設備ならびに装置の名称を記入すること。

(様式2-4)

組換えDNA実験計画書

廃止

非閉鎖系区画又は屋外特定区画等における実験

平成 年 月 日

申請の種類 (注1)	実験の区分 (注2)	物理的封じ込め (注2)	公的経費 (注3)
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 (年 月 号) <input type="checkbox"/> 変更 (年 月 号)	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> 非閉鎖系区画 <input type="checkbox"/> 屋外特定区画 <input type="checkbox"/> その他屋外の区画	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

課題名				
実験実施期間(注4)		年 月から 年 月まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・職名			
	氏名	TEL	FAX	
		E-mail		
実験場所	所在地	(〒)		
	名称			
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)
安全委員会が本実験計画の 実施を適当と認める理由(注7)		委員長の所属部局・ 職名・氏名		

廃止

実験の目的	
実験の概要	

(A) 組換え体に関する事項

組換え体の種類及びその作出方法(注8)		
宿主及び宿主の属する生物種	分類学上の位置(注9)	
	自然界における分布(注10)	
	生殖・繁殖様式及び遺伝的特性(注11)	
	当該生物の属する生物種における有毒物質産生の有無(注12)	
	その他の特性(植物の場合は雑草性の有無を含む)(注13)	
供与DNAの由来、種類、機能、大きさ、純化の程度及びその構成(注14)		
ベクターの由来、構成及び特性(注15)		
組換えDNA分子の構成図(注16)		

これまでの実験で得られた知見	これまでの実験経過(注17)			
	元の宿主と組換え体の相違	供与DNAの発現	発現形質	
			発現の安定性(注18)	
			供与DNAの存在状態(注19)	
			有毒物質産生の有無	
	生殖、繁殖様式及び遺伝的特性			
	その他の特性			
	その他得られた知見			

(B) 組換え体を接種する動植物に関する事項

組換え体の接種の方法		
組換え体を接種する動植物及び当該動植物の属する生物種	分類学上の位置 (注9)	
	自然界における分布 (注10)	
	生殖・繁殖様式及び遺伝的特性(注11)	
	当該生物の属する生物種における有毒物質産生の有無(注12)	
	その他の特性(植物の場合は雑草性の有無を含む)(注13)	
組換え体の接種が動植物に与える影響(注20)		

(C) 実験の実施方法に関する事項

栽培・飼育等の規模 (注21)		
栽培・飼育等の方法 (注22)		
施設等	位置及び周辺との隔離状況(注23)	
	規模、構造及び設備 (注24)	
	周辺の環境における生物種(注25)	
	周辺の環境の気象条件及びその影響 (注26)	
組換え体等の区域外への漏出・飛散・逃亡防止のための措置(注27)		
組換え遺伝子の区域外への伝播防止のための措置 (注28)		
実験終了後の組換え体、廃棄物等の処置方法及びその有効性(注29)		
実験区域への従事者以外の立ち入り防止の措置 (注30)		

計画書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

課題名等の他、組換え体を用いる実験は(A)及び(C)について、組換え体を動植物に接種する実験は(A)から(C)について必要事項を記入すること。

注1 該当項目にチェックを入れ、変更及び継続の場合は前回大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。

注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。

注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。

注4 予定している実験実施期間(5年を限度とする)を記入すること。

注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。

注6 組換えDNA実験の経験の有無ならびに経験年数を記入すること。

注7 安全委員会及びその委員長が本計画を安全に実施できると認める理由を記入すること。(実験計画、場所、従事者の妥当性など)

注8 使用する組換え体の種名及び作出方法(パーティクルガンにより細胞にDNAを導入した後に植物体を再生等)を具体的に記入すること。

注9 和名及び学名を記入すること。

注10 わが国における分布状況及び必要に応じて原産国等における分布状況を記入すること。

注11 植物の場合は以下①～⑥について、その他の場合は自然界における生活サイクルについて記入すること。[①種子繁殖、栄養繁殖の別 ②一年生、多年生の別 ③種子又は栄養体の拡散様式 ④自家受粉、他家受粉の別 ⑤花粉の拡散様式 ⑥交雑様式]

注12 有無及びある場合は、その名称及び有害さの程度を記入すること。

注13 生育可能温度等の生育条件を記入すること。

注14 DNA供与体の属・種・必要に応じて系統名、ゲノム・相補などのDNAの種類、構造遺伝子・発現調節遺伝子等の機能、使用するDNAの機能部分の大きさ、クローン化等による純化の有無及びその程度、各機能部分の構成図等について記載すること。

注15 薬剤耐性等ベクター内の遺伝子機能、その由来及び構成について記述すること。

注16 供与DNA及びベクターの構成を遺伝子部位等を含め図示すること。

注17 組換え動植物の作成実験、植物栽培施設における栽培実験又は動物飼育施設における繁殖等これまでに実施してきた実験について、計画の機関内安全委員会における承認年月日、実験の時期、方法、組換え動植物の継代数等を含めて具体的に記載すること。

注18 発現を検討した個体の数、世代数、分析方法について記載すること。

注19 供与DNAの存在の状態を、検討した個体の数、世代数、分析方法を含め記載すること。

注20 組換え体を接種した動植物についてその予想される影響を記載すること。

注21 栽培する組換え植物又は組換え体を接種する植物の個体数と栽培面積、飼育する組換え動物又は組換え体を接種する動物の個体数と飼育面積等を記載すること。また、当該施設において異種の生物が栽培・飼育されている場合等はその生物種及び栽培暦・飼育暦等を記載すること。

注22 組換え植物又は組換え体を接種する植物の栽培方法と容器の使用の有無、組換え動物又は組換え体を接種する動物の飼育方法と容器使用の有無等について記載すること。

注23 使用する施設・実験区域等の位置が分かるように、周辺の建物・河川等をあわせ図示すること。

注24 使用する施設・実験区域等の規模、構造及び設備、機関内安全委員会による認可年月日について記載すること。

注25 使用する施設・実験区域等の周辺に、組換え生物又は組換え体を接種する生物と交配可能な生物が生息する場合に記載すること。

注26 最高気温、最低気温、平均気温、降水量その他の気象条件及び、組換え生物又は組換え体を接種する動植物の生育や生存に対する影響について記載すること。

注27 消毒、除雄、袋かけ、栽培容器の使用、飼育容器の使用、実験衣の着用等、組換え生物又は組換え体を接種する生物が実験施設・区域外に流出しないために講ずる措置を具体的に記載すること。

注28 大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培時における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物の不活化等、封じ込め方法について記載すること。

注29 実験終了後の組換え生物又は組換え体を接種した生物のみならず、培養・栽培・飼育中に接触した器具類や廃棄物の具体的処理方法を、確認又は推定される有効性とあわせ記載すること。

注30 内部規則、「組換えDNA実験中」の表示、金網、くい、ネズミ返し等、講ずる措置を具体的に記載すること。

(様式3)

組換えDNA実験結果(終了・中止)報告書

平成 年 月 日

京都大学総長 殿

実験 責任 者	所属	
	職名	
	氏名	≡(印)

下記の組換えDNA実験について実験結果(終了・中止)報告書を提出します。

記

組換えDNA実験の課題名	承認番号

(様式4)

組換えDNA実験結果報告書

廃止

平成 年 月 日

確認通知の番号 (注1)	実験の区分 (注2)	物理的封じ込め (注2)	公的経費 (注3)
年 月 号	・微生物・培養細胞を宿主とする実験 <input type="checkbox"/> 未同定DNA実験 <input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験 <input type="checkbox"/> 大量培養実験 ・動物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種 ・植物を用いる実験 <input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種	<input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> LSC <input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> LS1 <input type="checkbox"/> P3 <input type="checkbox"/> LS2 <input type="checkbox"/> P4 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 非閉鎖系区画 <input type="checkbox"/> 屋外隔離区画 <input type="checkbox"/> その他屋外の区画	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 文科省科研費 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 無

実験実施機関	所在地	(〒)		
	名称			
	代表者の職名・氏名			
課題名				
実験実施期間(注4)		年 月から 年 月まで		
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)		
	所属機関・部局・職名			
	氏名	TEL E-mail	FAX	
実験場所	所在地	(〒)		
	名称			
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)
安全委員会	所属部局の所在地			
	委員長	所属機関・部局・ 職名		
		氏名		

廃止

課題名	
実験の目的	
実験の概要	

供与体・ベクター・宿主の組み合わせ(注7)							
DNA供与体 (注8)	DNAの種類 (注9)	未同定DNA 実験に係る 単離予定の DNA(注10)	同定済み DNA実験に 係る供与 DNA(注11)	ベクター (注12)	宿主 (注13)	封じ込め レベル (注14)	備考

本実験が大臣確認実験と なった事由(注15)	
組換え体の保存の有無及びそ の保存方法・処分方法	
確認通知に記入された事項 (注16)	
実験の結果(注16)	
その他本実験の安全性評価に 関する見解等(注17)	

報告書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

注1 大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。

注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。

注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。

注4 実験実施期間を記入すること。

注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。

注6 組換えDNA実験経験の有無ならびに経験年数を記入すること。

注7 DNA供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎に番号、直線、罫線等でまとめ、相互の関連を明らかにすること。

注8 DNA供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。

注9 ゲノムDNA、相補DNA、合成DNAなどの種類を記入すること。

注10 未同定DNA実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとしたDNAの名称を記入すること。

注11 同定済みDNA実験のときに該当。使用したDNAの名称を記入すること。

注12 ベクターの名称を記入すること。

注13 宿主の種名又は系統名を記入すること。

注14 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込めレベルを記入すること。

注15 指針第6章及び第7章のどの項目に該当するか記入すること。通知Ⅲの3に基づき「組換えDNA実験指針」(昭和54年8月内閣総理大臣決定)に係る結果報告を行う場合は、同指針の基準を記入すること。

注16 確認通知において報告事項とされた事項及びその結果を記入すること。通知Ⅲの3に基づき「組換えDNA実験指針」(昭和54年8月内閣総理大臣決定)に係る結果報告を行う場合は記入の必要はない。

注17 当初の予測と異なる事象の有無、実験従事者の組換えDNA実験に由来すると考えられる健康被害の有無など、実験の安全性を評価するに当たって必要な事項を記入すること。

(様式4-1)

組換えDNA実験結果報告書

平成 年 月 日

確認通知の番号 (注1)	実験の区分 (注2)	拡散防止措置 (物理的封じ込め) (注2)	公的経費 (注3)
年 月 号	<p>・微生物・培養細胞を宿主とする実験</p> <p><input type="checkbox"/> 未同定DNA実験</p> <p><input type="checkbox"/> 同定済みDNA実験</p> <p><input type="checkbox"/> 大量培養実験</p> <p>・動物を用いる実験</p> <p><input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種</p> <p>・植物を用いる実験</p> <p><input type="checkbox"/> 作出 <input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 接種</p>	<p><input type="checkbox"/> P1 <input type="checkbox"/> LSC</p> <p><input type="checkbox"/> P2 <input type="checkbox"/> LS1</p> <p><input type="checkbox"/> P3 <input type="checkbox"/> LS2</p> <p><input type="checkbox"/> P4 <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p><input type="checkbox"/> 非閉鎖系区画</p> <p><input type="checkbox"/> 屋外隔離区画</p> <p><input type="checkbox"/> その他屋外の区画</p> <p><input type="checkbox"/> P()</p> <p><input type="checkbox"/> 特定飼育区画</p> <p><input type="checkbox"/> 特定網室</p>	<p><input type="checkbox"/> 有</p> <p><input type="checkbox"/> 文科省科研費</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p><input type="checkbox"/> 無</p>

課題名					
実験実施期間(注4)		年 月から 年 月まで			
実験責任者	所属部局の所在地	(〒)			
	所属機関・部局・職名				
	氏名	TEL	FAX		
	E-mail				
実験場所	所在地	(〒)			
	名称				
実験従事者	氏名	所属機関・職名	宿主及びその取扱い 経験年数(注5)	組換えDNA実験 経験年数(注6)	
安全委員会	所属部局の所在地				
	委員長	所属機関・部局・ 職名			
		氏名			

実験の目的	
実験の概要	

供与体・ベクター・宿主の組み合わせ(注7)							
DNA供与体 (注8)	DNAの種類 (注9)	未同定DNA実験に係る 単離予定の DNA(注10)	同定済み DNA実験に 係る供与 DNA(注11)	ベクター (注12)	宿主 (注13)	拡散防止措置 (封じ込め) レベル (注14)	備考

遺伝子組換え生物等(組換え体)の保存の有無及びその保存方法・処分方法	
確認通知に記入された事項(注15)	
実験の結果(注15)	
その他本実験の安全性評価に関する見解等(注16)	

報告書記入要領

本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

- 注1 大臣確認を受けた年月及び確認番号を記入すること。
- 注2 本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。
- 注3 公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。
- 注4 実験実施期間を記入すること。
- 注5 宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。
- 注6 組換えDNA実験経験の有無ならびに経験年数を記入すること。
- 注7 DNA供与体、ベクター、宿主の組み合わせ毎に番号、直線、罫線等でまとめ、相互の関連を明らかにすること。
- 注8 DNA供与体となる生物の種名又は系統名を記入すること。
- 注9 ゲノムDNA、相補DNA、合成DNAなどの種類を記入すること。
- 注10 未同定DNA実験のときに該当。核酸混合物から単離しようとしたDNAの名称を記入すること。
- 注11 同定済みDNA実験のときに該当。使用したDNAの名称を記入すること。
- 注12 ベクターの名称を記入すること。
- 注13 宿主の種名又は系統名を記入すること。
- 注14 組み合わせ毎に物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込め~~拡散防止措置~~レベルを記入すること。
- 注15 確認通知において報告事項とされた事項及びその結果を記入すること。~~通知Ⅲの3に基づき「組換えDNA実験指針」(昭和54年8月内閣総理大臣決定)に係る結果報告を行う場合は記入の必要はない。~~
- 注16 当初の予測と異なる事象の有無、実験従事者の組換えDNA実験に由来すると考えられる健康被害の有無など、実験の安全性を評価するに当たって必要な事項を記入すること。

(様式5-1)

遺伝子組換え生物等組換え体の譲渡等・提供の計画申請書

平成 年 月 日

京都大学総長 殿

実験責任者 (所属)

(官職名)

(氏名)

(印)

下記の遺伝子組換え生物等(組換え体)の譲渡等・提供について別紙計画書のとおり実施したいので承認を申請します。

記

譲渡・提供の対象となる遺伝子組換え生物等(組換え体)の系統名

--

遺伝子組換え生物等組換え体の譲渡等・提供の計画書

申請者(機関・部局・職名)

(氏名)

(印)

譲渡・提供する者について	所属部局の所在地		
	機関・部局・職		
	氏名		
	譲渡・提供する者(組換え体)	系統名	
		遺伝子組換え生物等(組換え体)の特徴等	
	作製した実験	課題名	
		年月日	
承認者			
譲渡・提供される者について	所属部局の所在地		
	機関・部局・職名		
	氏名		
	機関の事業内容		
	利用目的		

(様式5-3)

平成 年 月 日

遺伝子組換え生物等の譲渡・提供・委託に関する情報提供書

(受け入れる側の責任者) 殿

実験責任者(機関・部局・職名)

住所

氏名

印

連絡先:電話

ファックス

e-mail

記

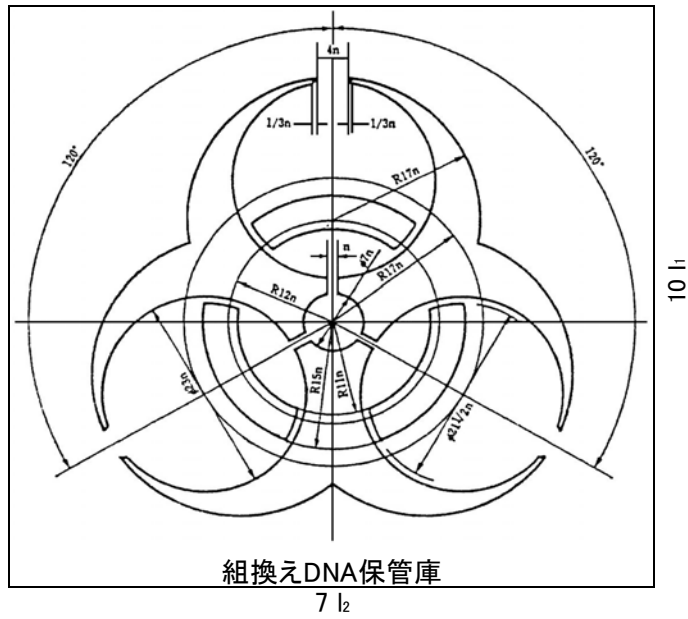
京都大学において今回の譲渡等にあたり第二種使用をしている以下の遺伝子組換え生物等につき情報を提供いたします。

系統名		
遺伝子組換え 生物等の特性	核酸を供与する 生物種名	
	供与核酸名	
	ベクター等使用の有無	有・無(有りの場合記入_____)
	宿主	
本学における機関承認番号 承認日	研研2第()号 または _____(6ケタ数字) 平成 年 月 日	
本学での拡散防止措置	P1 P2 P3 特定飼育区域 その他 P1A P2A P3A 特定網室 () P1P P2P P3P	
法令上での拡散防止措置	P1 P2 P3 特定飼育区域 大臣確認 その他 P1A P2A P3A 特定網室 ()() P1P P2P P3P	
数量等		
搬入予定日	平成 年 月 日	
譲渡等の目的	共同研究 他研究機関等への譲渡 凍結保存 クリーニング 微生物検査 その他()	
詳細な情報(注)	有 ()無	
その他(遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律施行規則第16条第1号、第2号又は第4号に基づく使用等をしているか等)		

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第26条(情報の提供)に基づく処置です。

(注)高レベルの拡散防止措置、大臣確認等、あるいは相手機関の求めがあった場合は、詳細情報(本学における実験申請書の写し等)を添付するものとする。

(様式7—1)
(様式6—1)



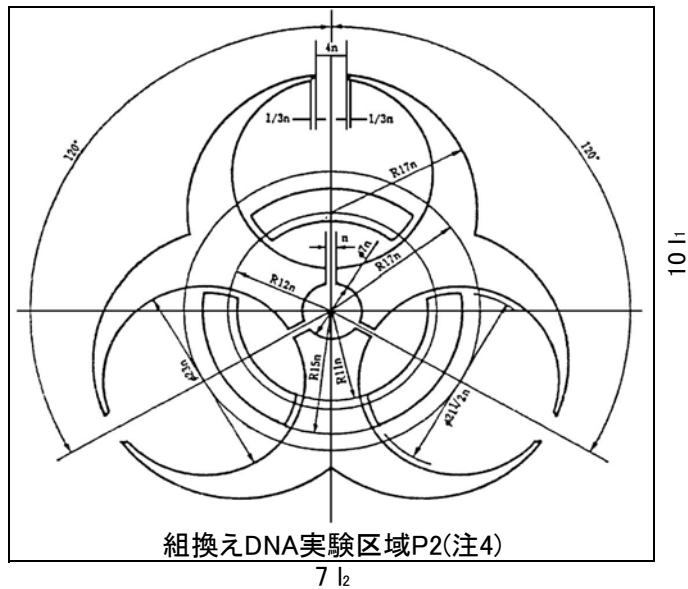
注1 nは、1ミリメートル以上とする。

注2 l_1 及び l_2 は、1センチメートル以上とする。

注3 色彩は、次表によること。

部分	色彩
地	白
文字	黒
マーク	赤橙

(様式7—2)
(様式6—2)



注1 nは、1ミリメートル以上とする。

注2 l_1 及び l_2 は、1センチメートル以上とする。

注3 色彩は、次表によること。

部分	色彩
地	白
文字	黒
マーク	赤橙

注4 必要な**拡散防止措置**(物理的封じ込め)のレベルを表わすこと。